

## 国際会議報告

「第 6 回 アジア-太平洋防食会議」  
に出席して\*

安 藤 繁\*\*

アジア-太平洋防食会議 (Asian-Pacific Corrosion Control Conference) は 2 年に 1 度開催される。本年は第 6 回にあたり、9 月 18 日から 22 日までの 5 日間、シンガポールで行われた。本会議はアジア太平洋地域からの参加を主体に、太平洋の西側に位置する国で開かれることを原則としているが、参加はどこからでも自由でアジア太平洋地域における防食技術の発展に寄与することを目的としている。欧米諸国を中心にした国際会議が多い中でアジア太平洋地域諸国で継続的に開催される本会議はユニークなものと言えよう。参加者は 29 개국 252 名で、発表件数は 135 件であった。参加者数および発表件数を国別に分けると表 1 のようになる。当日になって取消しが 2, 3 件あったが、ここでは Proceedings に掲載されているものを対象にまとめた。次回の開催地である中国から多数の参加および発表があったのが特に目についた。

初日の午前中に行われた Opening ceremony で、シンガポールの環境庁長官である Dr. Ahmad MATTER の挨拶があり、シンガポールにおける腐食による損失額は 1 年当たり 20 億シンガポールドル (約 1500 億円) にも達し、これは実に GNP の 4% に相当するとのことであった。このことは翌日の新聞 “The Straits Times” にも取り上げられた。また 9 月 21 日発行の同紙に、本会議の組織委員でシンガポール腐食協会の副会長でもある Mr. Ron FLEMING の講演発表に関する記事が掲載さ

表 1 国別参加者数および発表件数

国 名	参 加 者 数	発 表 件 数	国 名	参 加 者 数	発 表 件 数
Australia	27	9	Malaysia	24	5
Bangladesh	2	—	Netherlands	2	1
Belgium	1	—	New Zealand	1	—
Brunei	5	1	Nigeria	1	2
Canada	5	4	Poland	1	—
China	29	49	Saudi Arabia	1	1
Denmark	1	—	Singapore	71	12
Hong Kong	3	1	Switzerland	1	1
India	6	5	Taiwan	7	2
Indonesia	12	9	Thailand	11	4
Iran	1	1	U.S.S.R.	1	1
Italy	4	1	U.A.E.	1	—
Japan	11	10	U.K.	6	2
Korea	1	—	U.S.A.	15	13
Kuwait	1	1	計	252	135

\* 本国際会議出席にあたっては、日本鉄鋼協会日方学術振興交付金が賦与されました。

\*\* 大阪府立大学工学部 工博

れ、自動車や建造物の腐食を例に日常生活の身近なところで腐食が問題になっていることおよびそれに対する防食法の具体例が紹介されていた。日本でこのような国際会議が行われた場合、これだけの取扱いをされた例があるだろうか。政府高官がわざわざ挨拶に来られたり、本会議の開催中にこのような記事が掲載されたことは、おそらく本会議が当地では Big event であり、政府がこのような国際会議の開催を積極的に奨励支援しているからであろう。

Opening ceremony に続いて、Prof. R. N. PARKINS による Plenary lecture があった。Prof. PARKINS は SCC で著名な方で、ご自身の研究成果を基に “Prevention and Controlling Stress Corrosion Cracking” について講演された。鋼の SCC に対する合金元素添加の効果などについて話されていたが、残念なことに途中でスライド映写機の調子がおかしくなり、ほとんど耳だけから説明を聞かざるをえなくなったため、正直なところ後半は十分に理解することができなかった。一般に日本で講演される Native speaker の方は比較的 Slow pace で英語を話されるので理解しやすいが、当地では、講演発表および質疑応答の際、Native speed で話されるので筆者のようにヒヤリングの苦手な者にとってはお手上げである。外国へ出てこのような経験をされた方も多いと思われるが、筆者も今更ながらヒヤリングを強化する必要をひしひしと感じたしだいである。その後 Plenary session が 11 の Session (Bacteriological attack, Cathodic protection, Coatings, Concrete corrosion, Corrosion measurement, Environmental cracking / Atmospheric corrosion, Fundamentals, Inhibitors, Marine corrosion, Materials, Oil and gas) に分かれ、3 会場で行われた。日本からは Coatings で竹本ら (青山学院大学) が 2 件、中山ら (大日本塗料) や S. JOMJUNYONG ら (武蔵工大) がそれぞれ 1 件、Corrosion measurement で筆者らが 1 件 Fundamentals で世利ら (室蘭工大) が 1 件、Inhibitors で阿部 (中川防蝕) と鈴木ら (栗田) がそれぞれ 1 件、Materials で著者らが 1 件、Oil and gas で巴 (帝国石油) が 1 件、計 10 件の発表があった。筆者は主に Corrosion measurement や Materials, Coatings の Session に出席したが、参加者の多くが企業の技術者や研究者であったためか、優れた研究発表と思えるものでも Academic なものには関心が薄いようで、そのような発表の行われている会場では出席者は少なく、質問もほとんどなかった。それに対し、腐食や防食の事例的な講演の多い会場は盛況で質疑応答にも熱が入っていた。

この会議で特に印象に残ったのは、Lunch time と Banquet であった。Lunch time では、ホテルの地下のホールに参加者全員が座れるだけの円卓が用意され、両隣に座った人たちと食事をしながら午前中に発表した討論の続きや親交を温めることができた。筆者はシンガ

ポールやマレーシアの技術者から多くの質問を受け、失礼ながら想像していた以上に彼らの腐食防食に対する技術レベルが高いのに驚かされた。Banquet は3日目の午後7時から植民地時代の香りの残る Goodwood Park Hotel で催された。Banquet には御夫妻で出席される方も多く、非常に華やいだ雰囲気の中で筆者には場違いな感じがして多少緊張気味であったが、会が始まると司会者の軽妙な話で会場は爆笑の連続で、周囲の人たちとの会話も弾んだ。また民族舞踊団のショウや Lucky draw (くじ引き) など楽しい企画も盛り込まれ、翌日の学会発表の重圧からしばし開放され、楽しい一時を過ごすことが

できた。Lucky draw では Prof. PARKINS が1等賞(腕時計)を当てられ、出席者一同からひととき大きな拍手喝采を博していたのが印象的であった。

国際会議で講演発表するのは今回が初めてであったが筆者にとっては貴重な経験をし、多くの成果を得たように思う。特に諸外国の腐食防食の技術者や研究者たちと親交を深めることができたことは何よりの収穫であった。

最後に、本会議出席に際し日本鉄鋼協会から第12回日向方斉学術振興交付金をいただいたことを付記する。